

聖書の祈りが私の祈りになる（旧約編）

第1章 族長たちとその時代の人々の祈り



I. アダム

創造主なる神と、この方がご自分のかたちに似せてお造りになった人々とのコミュニケーションについての最初の記録は、**創世記1章28**に見られます。

「神は彼らを祝福された。神は彼らに仰せられた。『生めよ。ふえよ。地を満たせ。地を従えよ。海の魚、空の鳥、地をはうすすべての生き物を支配せよ』。

ここで主導権を取り、人間にお語りになっているのは神です。したがって、根本的な原則をお定めになっているのも神です。すなわち、神の言葉を聞くこと、そのみこころを知ることは、少なくとも、自分の関心事を神にお語りするのと同じくらい大切なことであり、おそらくは、自分の願いを祈る以上に素晴らしい結果をもたらすものだという原則です。

祈りという言葉はアダムとエバの物語には用いられていませんが、神とのかたちに造られたこの二人の間のコミュニケーションは、はっきりと見ることができます。また、これら最も古い人間たちが、神のみならず、墮落した御使いであるサタンとコミュニケーションを取っている点(創 3:2-5、黙 12:9、20:2)にも注目しなければなりません。神とサタンは、どちらもが語りかけてくるのですが、私たちはその違いを見分けることを学ばなければなりません。力強い祈りとは、神がお語りくださることに基づくものです。サタンの語ることに耳を傾けてしまうならば、妨害されてしまうことにもなりかねません。

サタンの声に注意を向けてしまうならば、その瞬間、自分を祝福したいと思ったださっている神との間に壁を築いてしまうこととなります。神は「**そよ風の吹くころ、…園を**」(創 3:8)、アダムとエバとともに歩いてくださっていました。ところが、墮落後の彼らは、そのような近い交わりに耐えられなくなり、良心の呵責のゆえに神から身を隠さざるを得なくなりました。神と罪人たちの間に生まれた溝は、彼らが自ら罪を告白し、神の憐れみの扉が開くまで、埋まることはなかったのです。

「彼(アダム)は答えた。『私は園で、あなたの声を聞きました。それで私は裸なので、恐れて、隠れました』…神である主は、アダムとその妻のために、皮の衣を作り、彼らに着せてくださった」(創 3:10、21)。



第1章

族長たちとその時代の人々の祈り

アダム



Check!

- 『聖書の祈りが私の祈りになる』（旧約編） 48～49ページ
- 主な引用箇所 創世記1章28節、3章1～10節、21節



質問

- 1 自分の関心事を神にお語りするのと同じくらい大切に、自分の願い以上にすばらしい結果をもたらす原則は何でしょうか？（48ページ参照）
- 2 今日、神は聖書を通して、聖霊の働きを通して心に語りかけて下さいます。あなたが神の語りかけを聞くために、日々心がけておられることは何かありますか？
- 3 アダムの物語から、祈りとは神とのコミュニケーションだと教えられます。祈りは私たちからの一方通行ではないことを意味します。あなたは神に聞く祈りをしていますか？
- 4 創世記3章のへびの姿から、サタンからの語りかけの特徴にはどのようなものがあると思いますか？
- 5 神もサタンも私たちに語りかけてくるので、何が重要になりますか？（参照49ページ）あなたが神からの語りかけがどうか正しく吟味するためにどうしたらよいと思いますか？
- 6 今日読んだ箇所から、あなたは祈りについてどんなことを教えられましたか？
どんなことを実践したいと思いますか？



祈り

天の父なる神さま。私の語りかけを受け止めて下さることを感謝します。私があなたからの語りかけを聞き分けることができるように助けてください。私の願い以上にあなたの思いを知ることができますように。